

# 九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.106

2009(平成21)年8月9日(日)発行 のうせんかう  
凌霄花

<1945(昭和20)年8月9日午前11時2分、アメリカ軍は長崎に2発目の原爆投下>  
**はじめの目標は、長崎ではなく小倉だった！** ●午前2時49分、原爆アットマンを搭載したB29爆撃機ボックスカー号は、北九州の小倉をめざして太平洋上のテニアン基地を出発した。しかし小倉上空は雲がかかるついてて投下目標を捜すのに3回も旋回したが、確認できず、燃料不足を考慮してついに断念し、第2目標の長崎攻撃に変更する。●小倉から南下し、熊本方面から島原半島を経て長崎へ。10時58分長崎上空に達するが、雲量8で視界はほとんどできかなかった。ビーハン爆撃手はレーダーによる投下の準備にかかったその時、わずかの雲間から長崎製鋼所を発見し、すばやく投弾ボタンを押した。11時2分爆発。機は投下と同時に反転し東方へ向かって脱出、沖縄に向かう。●午後1時沖縄に着陸。残り燃料わずか数ガロンであった。

**被爆の影響で次第に体に異変が**  
 原爆病といふ病気はないと思いません。俗に言うそれは、放射能が体内の白血球を破壊するため、抵抗力が弱まつて他の病気になりやすくなるのです。私はの場合、翌年の二十二年頃から次第に全身がだるくなり、坐つていても横になつてもだるく、なにをする気にもなれません。被爆者はよく「プラ病」と呼ばれて、白い眼で見られました。被爆者はよく「プラ病」と呼ばれました。

◆ところが広島の手前の駅、汽車は止められ、原爆投下翌日の七日、広島の街を歩いて通過し、一ヶ所被爆します。  
 ◆九日の朝ようやく長崎に到着し、長崎近くの旅館で食事を待つて、午前十一時、直接の原爆投下に遭遇します。気がつけば隣の海軍病院で大條我的手術を行いました。



(裏のページへつづく)

「はらまち九条の会」会報 No.106  
2009(平成21)年8月9日(日)発行 のうせんかう  
凌霄花



## 広島と長崎で二度の被爆を体験

顔も変形し、人目を避けての生活

相馬市原釜

Aさん(故人 署名)  
<後編>  
前編はNo.104

### 人間嫌いになり極度に人前を避けた

ていましたが、本当にそうなんですが、また胃腸に変調をきたし痛みもあり食欲も減退して、半年ほど相馬公立病院に入院したこともあります。それまで滅多にひかなかつた風邪も度々ひくようになりました。

被爆前顔とは全然違った人相になりましたが、被爆の時、顔の右半分がやられ、顔のガラス片の跡も残り、その手術の後遺症だと思いますが、右の耳の耳鳴りがひどく、右の眼は視力が衰えて常に涙がたまるようになり、また引きつた唇から汗が絶えず流れようになります。

しかし、親戚や知人の冠婚葬祭の時は困つてしまいますが、まさか顔がぶりをして結婚式に出席するわけにもいかず、できるだけ妻をつたりしますが、やむなく義理を欠いてしまう時もあり、極度に人前を避け、人間嫌いになつてしましました。

ました。被爆前の私の顔とは全然違った人相になつてしまい、昼間はなるべく外出しないようにし、性格も変わつてしましました。

(表のページより)  
鮮魚の行商で生計をたてるが

昭和二十三年ごろから徐々に体も快方に向かつたので職をさがしました。以前の職のプレス工への復帰は、七年以上のブランクがあるし体も弱いし、とてもかないませんでした。それで鮮魚の行商や小型漁船の漁で生計をたてました。

しかし、体は元通りになつたわけではなく、一日働いては一日休むという毎日でした。子供四人を育てなければなりませんから、黄労話はいくらでもあり語り尽くせません。

### 大手術後 每日通院するようになる

脊髄症で大手術をしました。右手がしびれて痛み、夜も眠れないほどでした。被爆した時に投げ出されたため、ち

ょうじむち打ちのような症状でした。手術は右下腹の軟骨を切り取り、それを頸椎に移植し、四月に退院しました。ところが、退院する頃から今度は腰が痛み、両足もつっぱってしびれがひどいです。ずっと病院通いで仕事をもつづけ困っています。毎日通院で治療には午前中いつぱいかかり、今日も行つてきました。毎日通院で治療には午前中いつぱいかかり、

### 悲惨な体験は私だけでたくさん

戦争は一度とあつてはいけない

戦後三十七年経つた今でも、こんな

ふうに原爆の傷跡は消えませんし、こ

れからも生活や治療でこの傷を背負つ

て生きていなければなりませんし、

全く不安です。こんな悲惨な体験は、

もう私だけではなくさんです。こんな戦

争は一度とあつてはいけない、繰り返します。

## 長崎 平和祈念像



高さ9.7m。長崎市松山町の平和公園の北端にある。投下から10年後の1955年8月8日完成。北村西望きたむらせいぼう作。神の愛と仏の慈悲を象徴し、垂直の右手は原爆の脅威を、水平の左手は原爆犠牲者の冥福を祈っている。

どこで何が買えますか。軍の命令で被爆して

苦労して、馬鹿をみただけと腰が立ちます。

海軍だから軍艦に乗つている期間だけが恩給の対象で、これも少額です。正直言つて本当にちょっと優遇してもらわないとどう

しようもありません。

### しっかりと生きていかなければ…

年二回の定期検診は受けていますし、何か相談があれば原町の保健所に行き、とにかく、そんなことを言つても娘三

歳のYさんに話します。Yさんは本当に親切に説明してくれたり、手続きなどもよくやつてくれます。心から感謝しています。

Yさんに話します。Yさんは本当に親切に説明してくれたり、手続きなどもよくやつてくれます。心から感謝しています。

とにかく、そんなことを言つても娘三

歳のYさんに話します。Yさんは本当に親切に説明してくれたり、手続きなどもよくやつてくれます。心から感謝しています。

Yさんは本当に親切に説明してくれたり、手続きなどもよくやつてくれます。心から感謝しています。

Yさんは本当に親切に説明してくれたり、手続きなどもよくやつてくれます。心から感謝しています。

### 二九八三(昭和五十八年一月六日越)

● Aさんの被爆体験は、広島で二度被爆していくても大変不満です。広島で二度被爆のことで認定を受けられました。

長崎では直接被爆と二重被爆

長崎では直接被爆の、いわゆる「二重被

爆」です。はじめは、「こんなことって本

当にあるのか」と信じられませんでした。

● 世界中に核廃絶の機運が高まってきた今こそ、「悲惨な原爆や戦争を繰り返してはいけない」というAさんの遺志を伝えるため、家族の理解のもと「私の戦

争体験」に掲載させていただきました。

● 「ヒバクシャ」という偏見の中で、私たちは被爆体験話をされたAさんのその勇気と誠意に感謝しつつ、重ねて冥福

## ●原子爆弾の人に与えた3つの被害●

### 1. 熱戦による被害

原爆が炸裂すると表面温度が6,000度の巨大な火の玉ができ、大火傷や脱水状態になり多くの命が奪われた。石やコンクリートの上に影だけを残して瞬時に死亡した人もいる(「人影の石」)。爆心地から約600mで2,000度もあり、屋根の瓦は表面が熔けてブツブツの泡状になった。2km離れて線路の枕木は自然着火しました。

### 2. 爆風による被害

高熱の火の玉で空気が膨張し爆風が生まれた。秒速4.4kmで、その圧力は1mあたり4.5~6.7トン。人は吹き飛ばされ、失神、負傷や死んでしまった。2kmで木造家屋は全壊し、窓ガラスの破片は16kmまで及んだ。

### 3. 放射能による被害

原爆の特徴。約4kmの地域にまでその威力が及ぶ。人体の血液が侵され、骨髄などの造血機能、さらに内臓に障害を起こす。1km以内にいた人は数日中にほとんどが死亡。体内に侵入した放射能は「原爆症」として今でもさまざまな障害を与えて続けている。放射能を含んだ「黒い雨」でも被害は拡大した。

現在ではこの数百、数千倍の威力を持つ水爆はじめ各種の核兵器が開発されている。

長崎の被爆だけがようやく認定される私が被爆者としてもらつてている手当についても大変不満です。広島で二度被爆している長崎では直接被爆と二重被爆のことで認定を受けられました。お世話をされながら、お金の話で申し訳ありませんが、私がいたているのは健康管

理手当という種類で、月額一万四千円です。それでも病気の間だけの三年間内で月一万四千円です。